

5 明治末の伏越改築風景

明治44年、それまでの木製から人造石の伏越に改築された。人造石は在来の「たたき」を改良した技術で、セメントが普及するまで広く使われた工法である。

左から奥に向かっていく構造物は、木製の旧伏越で、橋は三階橋。中央で一列に並んでいるのは、足踏み水車による排水で、手前では天秤棒で土砂を運んでいる。この人造石伏越は矢田川の河床が低下して露出してきたので、昭和30年度に改築された。



6 天然プール

伏越の南は、黒川・庄内用水・御用水などへ分水するための大きな池があった。プールが少ない時代、子ども達の絶好の水泳場になり「天然プール」と呼ばれていた。昭和30年代までは茶屋も出て大変賑わったという。今は埋められて三階橋ポンプ所になっている。(写真は昭和40年代頃)



7 黒川樋門

天然プールから黒川（堀川）へ流す水を調節する樋門。三階橋ポンプ所ができた時に、多少位置を変え復元された。石積みの階段と木製の樋門は明治の雰囲気をも今に伝えている。都市景観重要建築物等に指定。



8 御用水と御用水跡街園

御用水は名古屋城のお堀に水を送るため、寛文3年（1663）に開削された。翌年には今の西区幅下方面に給水する巾下水道も造られ、その水源にもなっている。

庄内川の水質悪化と用水路がゴミ捨て場になってきたので、昭和49年に埋められ、御用水跡街園に整備された。(背景の写真は昭和40年代頃、円内が現在の御用水の一コマ)

